

第7回青梅市総合長期計画審議会会議録（概要版）

- 1 日時 平成24年7月23日（月）午後3時～午後5時
- 2 場所 青梅市役所 2階204・205・206会議室
- 3 出席委員
篠原委員、館委員、羽藤委員、杉村委員、安間委員、野崎委員、志村委員、
岩田委員、村野委員、林委員、島田委員
- 4 議事
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 基本計画骨子の検討
 - ① 資料説明
 - ② 委員意見交換
 - (3) 施策連動型の仕組みづくり
 - ① 資料説明
 - ② 委員意見交換
 - (4) その他
 - ① 今後の審議会日程
 - ② その他

（配布資料）

- 資料1 第6回審議会意見等の分野別整理
- 資料2 基本構想素案（目標人口・土地利用方針）に対する市議会議員意見概要
- 資料3 第6次青梅市総合長期計画 基本計画の体系（案）
- 資料4 第6次青梅市総合長期計画 基本計画骨子
- 参考資料1 第6次青梅市総合長期計画 基本計画「現状と課題（案）」「指標（例）」
- 参考資料2 施策連動型の仕組みづくり（たたき台）

審 議 会 等 会 議 録 （ 概 要 版 ）

発 言 者	会 議 の て ん 末 ・ 概 要
会長	<p>(開会)</p> <p>前回の第6回では、基本構想の検討をしましたが、目標人口と土地利用については基本計画の検討ということで、施策分野の体系について皆さんから意見をいただきました。</p> <p>今日は、前回の議論も踏まえまして、基本計画の骨子が市の当局から示されています。基本構想に定めたまちづくりをもう少し具体的にしようということになっています。</p> <p>また、施策をバラバラに実施するのではなく、まとまったパッケージで提案して、効率のよい施策を展開したいと思っていますが、市からたたき台があるようですので、それも後ほど議論したいと思います。</p> <p>それでは、議事次第2の基本計画骨子の検討について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>配布資料の説明および基本計画骨子について資料に沿って説明</p>
会長	<p>前回までの基本構想をより具体化する、資料3の基本計画の体系を見ていただければ、真ん中に施策の分野が少し細かく分けてあって、一番右側にもう少し具体的な項目が記述してあるというスタイルになっている。</p> <p>一番右側の基本施策については、後半の施策連動型の仕組みづくりでこれらの基本施策をどう組みあわせてやっていくかという説明になると思います。</p>
委員	<p>今いただいた資料3での、郵送されている資料3との変更点は。</p>
事務局	<p>変更点は第5章「みんなが元気で健康なまち」の施策分野の「2 医療体制・市立総合病院の健全運営」とすべきところ、「健全経営」となっていました。その表記の修正です。</p>
委員	<p>基本方向と施策分野の全体像を今回はじめて見せていただいた印象としては、かなりわかりやすくなった。現行計画では5本の柱で基本方向がまとめられていたが、いくつかの点で無理に施策をくっつけてグルーピングするという印象が違和感としてあった。今回、10本に基本構想段階で整理したことによって、それぞれの柱で何をしようとしているかかなり明確になってきたと思う。</p> <p>例えば、1章の「安全で快適に暮らせるまち」では防災を中心に非常にまとまりのよい整理になっているかなという気がしますし、3番の子育て支援の点についても家庭、親、あるいは地域といった形で具体的にしていけることが非常にわかりやすく示されてい</p>

<p>会長</p>	<p>る。市民の皆さんに市として何をしていくのか、メッセージとして伝えているという意味ではかなりはっきり原型が網羅されている印象がある。</p>
<p>委員</p>	<p>他には。</p> <p>以前の計画から比べITインフラの整備という部分から、実際のサービスという方向に文言が移ってきたことは評価したいと思う。</p> <p>できれば、さらにもう一步、情報の推進・活用について、結局情報は伝わって価値を発揮するものなので、参考資料を見ても技術的な部分の充実がまだ強い気がするが、例えばすごくアナログ的な、個別に訪問するとか、そういった手法は有効で、そういう部分を含めて情報を伝えていくという部分をもう一步二歩、さらに明確にしてほしい。どうしてもIT基盤を整備して、効率的なシステムを導入して、電子化を進めてというところは、確かに基盤にはなるが、情報にとって一番大事なことは、発信された情報がちゃんと伝わって初めて価値になるので。</p> <p>基本計画骨子では個人情報の保護等に努めますと書いているが、個人情報活用される時代になると思う。法律もあり難しいかも知れないが、例えば近所でお年寄りがひとり暮らしをしている方がいたら、もし何かがあったら助けに行ってあげたいという方がたくさんいるので、そういうアナログ的な情報流通についても戦略的な意識を持っていただけるとありがたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>とかくIT、バーチャルな通信手段が発達してくると、どうしても顔を見ながらの情報を伝え合うというものがどうしても希薄になってしまう。今の時代は、パソコンなど機器を使った情報提供の方がよりよいものだという認識が私たちの中に非常に強いような気がするが、基本はやはりFace To Face、顔を見ながら情報を伝え合うというものも決して忘れてはいけないことを、まず基本に置いておくべきだと思います。</p> <p>機械を使つての情報伝達というのは、非常に効率が良い反面、コミュニティの中に大きく情報というものも含まれると思うが、機械任せにしてしまって、情報を発信したからそれで終わりではなくて、そこに柔らかな想いを忘れないようにしようというものは必要。漠然としています、暖かみを残した情報発信といったものも必要では。</p>
<p>委員</p>	<p>この基本計画、青梅市総合長期計画に議会のことについては一切うたっていない。議会費も含めて問題にしていけないと。どうしても議会に関して、行政は行政、議会は議会というのはおかしいと考えるわけです。</p> <p>確かに他のまちでも触れていないが、でもやはり、我々の払った税金で運営されている議会であり、当然改善点を洗わないといけないと思う。</p> <p>例えば、傍聴に行くとみんな私の年代の方で、少なくとも議会の中で一般質問とか予算関係で、若い方が傍聴できるように土曜日とか日曜日とか、そういう日に開催してほしい。議会のことから市として要求しにくい、それも改善でありサービスだと思う。</p>

会長	答えられますか。
事務局	庁と議会との関係は、車の両輪というような関係でとらえられている部分もありますけども、あくまで総合長期計画については、庁が市としての計画を定める、それについて議会は議会として、また議案としての審議をいただくことになる。議会のことは、議会の議会改革等の中でとらえられていくと考えている。
委員	市としての要求はあってもよいわけですね。例えば、議会に来て、何が検討されているか、やはり若い人たちにも知る権利はある。そういうチャンスがなければ開かれた議会とはならない。庁としてもそのようなアイデアを議会にぶつけてもよろしいのではないのですか。
事務局	委員の意見といたしましては拝聴いたしますけど、この審議会では、この基本構想あるいは基本計画の策定の中においては、議会の中身には立ち入らないようなかたちでとらえている。
会長	市では行政改革みたいな委員会なり審議会があるが、同様に議会のシステムについても議論するような場はあるのか。
副市長	私が聞いていますところによると、議会改革検討委員会というのがあります。
会長	検討委員会は議員たちだけでやっているのか。
副市長	そうです。
会長	<p>それでは改革は進まないだろうな。</p> <p>委員が言いたいことは二つあって、一つは一般の市民も参加できるような議会運営ということと、行財政改革に関係するのでしょうか、議会関係の方ではそういった話しはしていないのではないのかということ。</p> <p>私が関係している市町村では、市長が議員は半減にすべきだとか打ち出して、対立しているところもある。</p> <p>委員の指摘している点はこの場で議論しにくい、どこかで検討の必要があるのでは。</p>
委員	<p>10項目で基本計画の体系となっており、それぞれの基本方向がそれぞれ市役所の部署に連動して仕事がうまく回っていると想像させる内容である反面、組みあわせたようなことは考えられていないのか。</p> <p>例えば、「都市基盤が整う魅力あるまち」では、従前のように都市形成とか道路とか公共交通、下水道、河川、都市景観とか書かれてはあるわけですが、これだけ見れば都市計画道路の整備率が何%とか、そういったことを目標にやっていけばいいが、一方でその下の「みんなが参画し協働できるまち」ということで考えると、最近の動向では道路とか公共交通、都市景観の整備は市民参加型でやっ</p>

	<p>ていくのが非常にオーソドックスな方法論になっているとすると、例えば8と9は当然かけあわせてやっていくべきだということになったりします。あるいは「安全で快適に暮らせるまち」での防災や消防があるが、当然自主防災組織は作っているわけですが、先ほどの話があったようにICTでどうやっていくのかというのは当然これにかけあわせる話しですし、最近ですとコミュニティFMみたいなものを防災とかけあわせてやっていくことがある。できるだけ人対人、それからメディアも使いながら一体的にやっていくとすると、これらの項目はそれぞれ独立というよりは、かけあわせたような形でやっていく体制づくりが実は重要で、そのための仕組みをどういう風に考えていくのか。あるいは、それぞれの基本方向の1から10あるものをかけあわせて何かこうやるというモデル事業があってもいいのではないかという気がしました。</p>
事務局	<p>基本計画の骨子については、基本構想で議論をいただき、形をつくってまいり10の柱だてとしておりますが、時代背景としては、人口減少、あるいは、超高齢化がますます本格化するというこの中では、個々の分野、施策の展開だけではうまく回っていかないというところの課題は御指摘のとおりあります。そういったところで、個々の分野を捉えつつ施策の横断的な仕組みをもって課題を解決できないかということ、会長からもいわゆるパッケージ化というようなことで御指摘をいただいています、その部分につきまして仕組みづくりを検討しているところです。</p> <p>本日の審議の2番目の議題のところ、委員の御指摘をいただきました施策連動型の仕組みづくりといたしましてたたき台をお示しさせていただきたいと考えています。</p>
会長	<p>施策連動型の仕組みづくりの検討というのを、まだ今日はたたき台のたたき台という段階だと思うが事務局から説明をいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>参考資料2に基づき「施策連動型の仕組みづくり」について説明。あわせて、参考資料1について説明</p>
会長	<p>参考資料2の、例えば真ん中の上にある「子育て世代が住みたい青梅」という重点施策の打ち出しがあって、それに対応する基本施策、施策の分野があり、「特色のある青梅の教育が受けられ、高い学力が身につけられる街」というのは、それぞれ資料3の、3の2とか、3の3とか、4の2が対応しているという話ですね。</p> <p>その下にカギ括弧で書いてあるのがもう少し具体的に事例で書いてあり、「地域の文化や歴史を取り込んだプログラム」を教育でつくりますとか、「小・中一貫校教育」をやりますとか、右下にいくと「子どもと大人の交流活動が活発な街」のところで、「異年齢交流スペース」をつくりますとか。こういう提案になっている。場所と人で少し具体的なイメージが出てくるかな。</p>
委員	<p>この審議会でもずいぶん議論が進んで、このパッケージにしていって、色々な事業を行っていく場合でも、役所の中のある部署だけがそれを担当して、他のセクションが連動しにくいところがあるかと</p>

	<p>は思うが、ひとつのことを色んな所が協力しあって、より効率を高めることは非常に重要だと思います。こういう考え方はとても大事だと思います。</p> <p>ひとつ御提案させていただきたいのは、こうしたパッケージングをするときのひとつの指標、指針というか、この言葉が完全に適切かどうか分からないが、「何かを生み出す」という視点を非常に強く意識されてみてはどうかという気がします。</p> <p>言うならば、市民にとってプラスとなること、それはお金かも知れませんが、心の豊かさだとかそういった物かも知れませんが、「何かを生み出す」ということを考えながら、色んな施策を組み合わせでひとつの大きな、例えば「子育て世代が住みたい青梅」という目標に沿っていくつくり方ができたらよいと思う。逆に言えば、何かを生み出さないものは方向転換することが必要ではないか。例えば、50年ほど前の計画に従って一生懸命道路を造ろうとしているが、50年かけてできていない道路がこれから何年かかっただけなのか分からない。それができたからといって、住んでいる人にとってプラスの要素があるのかというと、まわりの人に聞いてもあまりプラスの要素がない。道路を作るための用地として買収された土地に、例えば太陽光パネルを設置してはどうか。そこで発電をして電気を生み出して行ったらどうか。三層立てにして上の部分に太陽光パネルを付け、下はグリーンベルトにしたり、フラワーガーデンにしたりしたらどうだろう、というようなアイデアを考えてみたら、そうすれば色々な憩いの場が生まれたり、雇用が生まれたり、そこに野菜のプラントみたいなものを作って収穫が生まれたりといったつくり方をして、ひとつの大きなテーマを実現していく、生み出して行く、生まれるというようなことをひとつのキーワード的に設定してはどうかと提案させていただきたいと思います。</p>
会長	<p>例えば、委員の言ったのを言葉として表すと、真ん中のところに「小・中一貫校教育」とあるが、その上の「地域の文化や歴史を取り込んだプログラム」でもよいが、ここに何か目標みたいなものがあるって、それを生み出すための「地域の文化や歴史を取り込んだプログラム」をやりますと、そういった書き方でいくともっとイメージが湧くのではないかな。</p>
委員	<p>細かい部分では数値、その他があって、やはり最終的な評価につながる部分なども含めてあるような。</p>
会長	<p>指標化できる部分があれば明快になるからあった方がよい。</p>
委員	<p>そういったつくり方ができれば、パッケージとして非常に強く生きてきて、目標意識も高まって、各部署も一生懸命取り組んで、市民も協働しやすいのではないかな。</p>
会長	<p>今日、例示がされていますけれど、他にも考えてよくて、これにこだわることでなくて、重点としてこういうものもあるのではという意見があったら出していただきたい。</p>
委員	<p>前回の会議で土地の利用の部分に触れられていましたけど、例え</p>

	<p>ば学校の空き教室のようなものは放っておけば何も生み出さなくて、下手をすると経費ばかり掛かっていく、耕作放棄地なども下手をすると無駄を生んでしまう。そこを活用する企画とかを、例えば市民の人たちとかも交えて生かしていくというようなことができたらいいなというような思いがあります。</p> <p>例えば「子育て世代が住みたい青梅」という大テーマがあった時に、その目標を達成するためにこういう資産があるから、こう活用したらうまくプラスになるじゃないというものがどんどん組み合わせられていくようなパッケージの作られ方が必要では。</p>
委員	<p>私から2点あります。</p> <p>1点目は、これを、分野をかなり横断的に連携しながらやっていく、連動しながらやっていくということです、当然ひとつの部署だけではできませんし、市民の方々にも参加していただくということになる。ということは従前の仕事のやり方からすると、こういうものをいっぺんに動かそうとすると、多分凄く大変なことになるような気がする、モデルプロジェクトを最初の2、3年の内に設定して、連携型の仕事のやり方も含めて、青梅市流のやり方を開発していくような仕事のやり方ができないかなと思います。</p> <p>もう少し具体的にいうと、計画人口が13万8千人で、実際には推計13万4千人ですので、10年後を見越せばそういう数字なわけですが、これが多分もっと減っていくわけです。通常考えますとやはり集約型の都市構造に段々と導いて行かざるを得ないとなると、やはりモデルプロジェクトみたいなことを色々考えた方がよい。</p> <p>やはりここにあるキーワードが含まれる青梅宿がある。あそこをモデルにして、歴史もある、商店街もある、そうすると健康・医療・福祉みたいなことで高齢者の方が歩いて暮らせて、もう一步、歩いて街を楽しむ。それがまあ訪れた人も楽しい。そういうものが連鎖していくような仕組みを考えるとしたら、やはり青梅宿がふさわしい。そこを何かひとつモデルプロジェクトにして、段々土地が空いてくるところもあるし、施設をイノベーションする際に、読み替えて医療施設を入れるとか、小・中一貫をすとか、色んなことができる可能性がある、そういうことを考えられないかというのが1点目です。</p> <p>もう1点は、進める際に、分野横断的ですので是非、色んな専門家の方を入れるような、フォーラムというか、まちづくり協議会というか、そういうものを設置してはどうか。分野が非常に多岐に渡る、例えば土木の分野ですと通常は都市計画の専門家がいて、コンサルタントがいて、といった進め方をしますが、そうではなく、都市計画の専門家もいるが、他にお医者さん、ITの専門家、ケースワーカーなど健康・医療・福祉・教育も含めて、できるだけ専門家の方をできるだけたくさん入れて、それで青梅宿の辺りをどうするのかというようなことをやっていただくと、この施策連動型っていうのは簡単ですが、なかなかやるのは大変だと思います。そういう異なる専門家の方々を混ぜるような形のラウンドテーブルみたいなものを地域の人と作っていただくようなやり方ができるとよいと思う。</p>
事務局	<p>仕組みづくりとして、このパッケージ化を検討しているところで</p>

	<p>すが、委員の御指摘をいただいた考え方として、実効性を持たせる仕組みとして、今後ブラッシュアップをしていきたいと考えています。</p> <p>「中心市街地活性化」という事業を例示させていただいていますが、委員御指摘のひとつのモデルとして、青梅宿といった地域性を捉えて、いわゆるコンパクトシティの発想にもとづいた中心市街地の活性化の施策というのを並行して検討しているところです。そういったところを突破口として、施策連動型の仕組みづくりをより具体的に検討を深めていきたいと考えています。</p>
会長	<p>少しここで確認しておいた方がよいと思うので言うのですが、先ほど説明があった資料4が一応この審議会で議論したまとめの報告として、第6次青梅総合長期計画の基本構想と基本計画というのが秋までにまとめて、議会にも説明して、報告書で出るわけですね。今日議論している施策連動型の仕組みは報告書には出ないでしょ？</p>
事務局	<p>本日、御議論いただいています基本計画の骨子にある各施策分野の体系とともに、たたきとしての仕組みづくり。この部分につきましては、仕組みとして基本計画の構成要素にしたいと考えています。</p>
事務局	<p>12月の議案としては、これまで御審議いただいた基本構想部分、今回お示ししている基本計画部分となっています。</p> <p>この施策連動型の仕組みづくりというものは、ちょうどその間にはさまる、構想と計画の中間に位置付けられたものとして捉えておりますが、今後さらに検討した上で対応を考えてまいります。</p> <p>構想と計画の間をとりまとめていく施策連動型の仕組みづくりという形でございまして、現行の第5次のチャレンジプログラムに類似したような位置付けという風に捉えています。</p>
会長	<p>構想と計画の間なの？</p> <p>計画をもっと具体化したものだと思っていただけ。</p>
事務局	<p>もうひとつの見方としては、さらに各施策分野の施策ごとの計画をブレイクダウンして連携するようなものという形で、この計画を推進するための仕組みという風な形でも捉えられますので、議論を深めていく中で対応してまいりたいと考えております。</p>
会長	<p>何らかの形で市民には公表するわけですね。そういうことを長期計画でここまで突っ込んで出すということは、意義があると思う。けどもう一段考えてみると、実際にどういう人たちが、市役所、民間、専門家といった人たちが実際にどうするか考える必要があるので。出していけばかっこいいけど、実際にはそう簡単にはできないのでは。</p>
委員	<p>施策連動型の仕組みづくりが、長期計画に出てくれば、今まで曖昧で何もわからなかった本から、大きく進んだものが出てくるんだと思うが、出てきたときに、いつやるの、誰がやるのというのは非</p>

	<p>常に大きな問題だと思います。</p> <p>今、中心市街地活性化ということで、青梅駅前をリーディング事業としてやっていこうという方向性がほぼ出来上がっておりまして、街というのは百ぐらいの地層でできているものだと思う。医療があり教育があり色んな産業があり、その中をなるべく横断できるような形で活性化協議会を立ち上げていただいて、そこをたたき台にしてまちづくり会社を運営していくというような形で、青梅駅前の狭い街区から、何とか雇用を生む方法がないか、青梅の魅力を発信する方法がないか、子どもを育てる世代が安心して暮らせるまちができないか、高齢者が、体が不自由になってもなんとか暮らしていく方法がないか、そこを「中活」を使って何とかやっていけないだろうかと、今、検討し取り組んでいる。10年で結果がでるかかわりませんが、これが絵に描いた餅じゃないように民間の方では頑張ろうという意識はあります。</p>
会長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>この施策連動型の仕組みについては、若干危惧をしている部分があります。確かにこれらの施策が単独に行われるのではなくて、相互に連携しながら行われるというのは理想であって、非常に望ましいと思うが、現実的には、それぞれの部課がそれぞれの体系、施策のもとで事業を行っていくというのが伝統的なやり方ですから、役所の中で各部課が連携しながらやっていると、縦割りのものを横串に刺していったら、今の東京都もそういつているが、言うは易しいがなかなか難しいと思う。</p> <p>現実には、現行の計画でもチャレンジプログラムという形でいくつかのプログラムを提示してありましたが、それもやはり長期計画の中の個別事業をいくつか組み合わせて連携して行うとしていたが、現実にはそういう形で推進されたのか、あるいは市の中でそうした推進機構をきちんと作って、それに対する進行管理が行われたのかという点で疑問がある。結果としてあまり成果のないまま今回の計画からチャレンジプログラムというのはなくなってしまったという印象も持っている。</p> <p>最初に計画を見たときに、チャレンジプログラムで横断的にやるんだという感じがありましたが、現実的にはそうはいつてなかったのではないかと感じている。</p> <p>まちづくりの基本方向の10本は、私のイメージとしては青梅の目指すまちづくり、その中に1から8までがある。そのまちづくりを支えるものとして9番、10番、要するに市民も含めてみんなが協働してつくっていくというイメージ。それからそれをきちっと市として、健全な行財政の整った市として支えていくと、サポートしていくと。あるいは推進力として事業費等の支出も含めて実施していくという、この10章の位置づけを考えそういう姿ではないかと思う。</p> <p>この9番、10番のひとつのあり方として施策連動型の仕組みというのが何か考えられればいいのかという気がします。ただこれは絵として描いただけでは結局それで終わってしまう。また、この施策連動型の仕組みづくりが、果たして一般の市民の方が見てどの程度理解できるかという心配もあります。</p> <p>計画全体でそうした思想でこれからまちづくりをやっていくんだ</p>

	<p>というメッセージを、まず前文の中で、例えば市長さんの言葉として述べていただいて、その上で施策分野ごとの施策の中でそうした思想を可能な限り盛り込んでいくことがまず必要では。その上でトライアルというか、プロジェクトとしてさっきの9番、10番を踏まえたような連動型の仕組みをやっていくことを計画の中で述べていく。そんな感じで取り組むことで、縦割りの、現実問題としてなかなか連動しない部分に風穴を開けられるのではないかという感じを持っています。</p>
会長	<p>危惧するという言い方をされていましたが、書くのは書けるけど、なかなかこれでは動くのは大変だと。 チャレンジプログラムの総括はどうしているのか。</p>
事務局	<p>第5次の計画の検証ということで、第2回の審議会において計画全体の検証結果を資料として提出させていただきましたが、チャレンジプログラムについての個々の検証結果については、資料としては今回作成いたしませんでした。 進行管理といたしましては、現行計画で8つのプログラムがございますけど、それぞれに関連する担当課が、年度ごとでの会議をとおして、検証と計画推進に当たっての確認を個々のプログラムごとで行ってきているという経緯があります。</p>
会長	<p>委員が言われたように、第5次でもそういうことをやっている訳だから、成果と反省を踏まえてどうするかというのが必要だから、次回ぐらいに全部でなくていいですから。 宮崎県に日南市という市があり、かつて城下町で飫肥（おび）藩と呼ばれていた。油分が多くて船舶用の木材として飫肥杉というのが有名だった。現在、船の材料はプラスチックだし、元々杉自身が売れませんからやはり危機感を抱いていて、特産であった林業の振興のため飫肥杉課を立ち上げた。課員はもちろん専属じゃなくて商工観光の誰々が飫肥杉課の課員となっている。そこに市役所の職員だけではなく民間のデザイナーを入れ、教育用の家具を作っているメーカーと連携して製品開発をやっている。飫肥杉を売ろうとして。そういう形ですけど、市役所の職員だけではできません。 これを思った時に、まとめ役が必要だと思う。多分これを市役所の職員だけでまかなうというのは無理だと思う。今、日南でやりだしているのは、運河の整備ということをやっているが、先ほどの、飫肥杉を使った市が中心になった商業活動、産業活動ですよ。それにはもちろん地元の木材組合や森林組合が入っています。それで、中心市街地をどうするかという話しになってきて、商工関係とまちづくりをやってきた者が一緒にやろうということになって、地元でどういう人材がいるのかを発掘しなければとなって、教え子がコーディネーター役になって、市の仕事に専属で入っている。そういうまとめ役が梅の花ごとにはないと無理だよ。市だけでまかなえないでしょう日常業務があつて。 ある意味で本腰をいれるとすると、この梅の花ひとつに毎年いくらかかるかという話しが出てくる。商工関係とタイアップするか、観光関係とタイアップするか、メーカーとタイアップするかという話しになってくる。</p>

委員	<p>連動型の仕組みづくりはもう少しもんでもらって、構想と基本計画をつなぐ手法というか、間としてこのやり方というのは、こういう手法というのか、こういう構想と計画をつなぐ間として、手法としてこういうことがある。手法の例示というとしおかしければ、こういうアプローチの仕方があるというような例示になるのか、具体例として、これでやるんだというようにやるのか、これは次の議論を待ちたいと思うが、これはこれで今回として評価する。</p> <p>ただアプローチの仕方として、こういう連動型のものもあるでしょうし、10年を考えると構想の中にもある、アウトソーシング、民間企業、ICTなんかまったくそうですよね。基本だけ考えれば。市役所の人が全部やるわけじゃまったくないですよね。</p> <p>要するに手法としては、もっと民間企業を活用するとか、そういう手法がひとつありますね。またもうひとつはこういう色々な連動型のやり方がありますねと。それで構想と基本計画を結んで、より基本計画を実際にできるようにするという、「つなぎ」、手法として、そこら辺は次までに考えてもらって、その時に我々は議論して評価したらいいのかなという気がします。ただ、構想と計画を結ぶのはこれだけではないような気がします。今後、民間企業の活用とか、民間人の活用とかやらなければ、計画というのは大きい政府になってしまう訳で、あるいは知恵だってそうだと思う。これはなかなか意欲的な取り組みだと思う。</p>
会長	<p>少し話しが具体的になったところで、今日欠席の委員から意見がでているので紹介してください。</p>
事務局	<p>欠席された委員からの御意見・御提言をいただいておりますので報告いたします。大きく2点ございまして、子どもの居場所づくりについて。それともう1点が、子どもたちへの暴力防止と人権教育について。この2点について御提言をいただいています。</p> <p>ひとつめの子どもの居場所づくりについて、細かく3点ありまして、1点目は広報でケミコン跡地に市民ホール建設を検討するとありましたが、ここに異世代交流のできる子ども達の居場所拠点「子どもステーション（仮称）」を併設することを提案します。設計段階のハード面や提供内容のソフト面で、小・中・高各年代の子ども達の意見が反映できる取り組みを行えば、よりよい子どもの居場所ができると思う。</p> <p>2点目は、子どもステーション（仮称）を軸に、各市民センターや自治会館などの既存の建物の一室を利用して地域の子供達が気軽に自由に遊び学べる「子どもサロン」を設置することを提案します。その背景には、現在青梅市民センターキッズルームで開催されている子どもサロンは、世界のアナログゲームや良質なおもちゃがそろえられ、第1小学校の子どもたちが放課後に気軽に立ち寄り、ちょっと楽しみ、学べる場になっている。</p> <p>3点目は、現在、市内6小学校で実施されている「放課後子ども教室」を全小学校に設置することを提案します。小学校の空き教室やコーディネーター等の人材確保等の問題点もあるが、開催校では好評と聞いている。</p> <p>もうひとつの大きな点が、子ども達への暴力防止と人権教育につ</p>

	<p>いて、中学生のいじめ問題がクローズアップされていますが、暴力を防止するためには、人間が人間として尊厳を持っていることを人権教育として学校で学ぶこと提案します。現在、小学校では、セーフティー教室などで暴力から身を守る事を学んでいます、それに加えて、基本的人権を幹にした、被害者も加害者も傍観者もつくりたくない「CAP子どもワークショップ」やエンパワメントと地域のつながりの大切さを知り、大人が子ども達の危機を察知し、子ども達の安心・安全を守ることが出来るかを学ぶ「CAP大人ワークショップ」など、子どもと大人があらゆる暴力や虐待について基本的人権をベースにした共通認識を持ち暴力防止が出来るCAPワークショップの小学校での実施が必要だと思います。</p> <p>以上、この大きく2点につきまして御提言をいただきました。</p>
会長	<p>今まで皆さんが基本構想段階で述べられた意見が、こういうところに盛り込まれるといいと思うんです。もうひとつ柱をたててもいいんだとか、今日の段階では全部固まらないと思いますので、次回に向けて、市の方でももう少し膨らませて欲しいところがあれば、意見を伺います。</p>
委員	<p>交通はかなり基本的なもので、青梅の中で人々が交流したり、行き交う上での基盤になりますので、それがどうなっているかで、色々なプログラムとか事業が本当に機能するのかということが左右すると思う。先ほど青梅宿のことを言ったのは何かというと、市の方も言われたように、やはり集約型でコンパクトに住まう、暮らすことが交通の経営コストというか、持続性の高い、もちろん4人家族を前提にすると車でショッピングにも行くというライフスタイルが特に東側のほうに関してはあってもいいと思うが、高齢化を考えた時に、歩いてある程度暮らせてコンパクトに文化とか歴史とか買い物とかが収まっているという空間をきちんと市がつくると、そこに連動型の仕組みが動いて、そういう街が3年、5年、10年で出来上がるという共通認識を持つ、そういう交通のあり方、そういうまちの姿を目指すべきではないかと思う。</p> <p>もう1点、交通に関して言うと、買い物難民のような存在が、市も広いので、これから出てくる可能性があるかも知れない。そのあたりは人間の安全保障という観点でやはり市としてケアしていく必要があるわけですが、それも闇雲に増やしていくと、都市経営コストを圧迫するので、市としてのアナウンスメントとしては、集約型で重点的にここはきちんとするので、こういう所に段階的に移り住んでいただくという言い方がいいかわかりませんが、元気で自由に暮らせる方は、青梅の自然のあるところで暮らしていただきつつ、高齢化してきた方々たちは、段階的にこういった所にサービスも充実させてやっているのに移り住んでください。そのための投資は連動型でこういう風に立体的につくっていきますということが、明快に総合計画の中で見えるようなやり方を出していくというのが重要ではないかなという気がしました。</p> <p>防災に関しては、最近陸前高田で私も小・中一貫校とか、小学校の統合みたいなことをやっているが、学校施設とか少し広い敷地を持っている所を防災拠点にするようなことを考えるやり方をしていますので、先ほど色んな敷地をうまく使っていったらどうかという</p>

委員	<p>話がありましたが、その中に防災上の機能をいかに盛り込んでいくかということが大事ではないかと思います。具体的には、例えば道の駅であるとか、健康・医療・福祉系の施設の中に防災機能の備蓄をきちんと入れていくとか、そういうことを手際よく施設のリノベーションのタイミングにあわせてやっていくことが大事ではないかなという気がしました。</p> <p>段々と計画の形も見えてきて、いよいよ出来るのかなという状況ですが、確かにこうして各部署が連携しながら物事を進めていくというのは当然必要なことだと思います。</p> <p>しかしながら、計画というのはつくるのも大変ですけれども、やるっていくことも大変で、いかにつくった計画をスムーズに動かすかということもよく検討していく必要があると思っています。これだけボリュームがありますので、これを全部というのはなかなか無理だと思いますので、優先度も当然必要なんでしょうけども、どうやってやるのかというようなことが、少し心配に思います。</p> <p>防災のところで地域消防のことが書いてありますけども、安定的な消防団員の確保を図るとあります。もう既に足りない状況が続いていて、その対策がされていない現状がある。もう既に課題があって、課題があるにもかかわらず、その原因究明がされてなくて、というのがかなりあるので、そういう所を洗い出しながら取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>農業振興計画もつくって5、6年経ちますが、計画をつくって満足している部分がありますので、必要な部分をいかにやっていくかということが重要だと思います。</p> <p>農業関係ですと、担い手不足、後継者不足は50年前から言われており、それがいまだに解決されていなくて、農地はどんどん減少して農産物もどんどん減っているというのが現状であります。それをいかに食い止めていく為には、やはり儲かる農業でないといけないと思います。そのためにはどうするかということも必要なので、項目が沢山ありますが、欲張らずに取り組んでいくことが必要で、できることからやっていくのがよいのかなと思っています。</p> <p>すべてやれば素晴らしいまちになるので、あとはこれからの対応の仕方だと思いますので、その辺も検討して取り組んでいきたいと思っています。</p>
委員	<p>青梅市の推定人口が13万4千人、多く見れば13万8千人、少なく見れば13万1千人ぐらいですが、この基本計画に沿った事業をやれば、青梅は13万4千人なり8千人で済むのか、そういう計画になっているのかどうかというのが心配です。</p> <p>それから、本当は、物をつくったり、あるいは何かをやったりするのにお金がかかるということが大変ではと思っていたが、お金で済むほうが簡単ではないか。市民の意向とか、あるいはそれぞれの人の目指す気持ちとか、方向は誰も一致していないと思いますので、お金のかからないところで、話し合いであるとか、市と連携して取り組むとか、そういうことをまとめることが非常に大変ではないかと思います。今回の6次の計画では、お金をいくらかけるといより、話し合っとかそういう施策がたくさんあるので、計画を達成するのが非常に大変ではないかと思っています。</p>

委員	<p>この長期計画審議会に入った時に、例えば青梅の、この青梅宿といったレトロなまちづくりがどうにかならないのかな、中途半端だとか、人が一度来てもう一度来たくなるまちづくりにならないかなとか、児童館がない、ケミコンの跡地でそういったものが造れないかなとか。そういう具体的な、過疎地のところでお年寄りが一人で住んでいると買い物がとても不便しているから、そういう所で企業と連携してできないかなとか。そういう具体的なものからここに入ってきたものですから、最初少し場違いな所に来たかなと思いつながら話を聞いてきたのですが、たたき台の中に色々なものがうまくまとまってきたかなと思います。</p> <p>実践していくには、例えば空き家バンクと書いてありますが、これは言っただけではなくその先に色んな企業が動いたり、持ち主が動いたり、福祉にしても民生委員が動いたりとか、そういった細かい先のことがあって実践されていくものだと思いますが、そこが一番興味のあるところであって、そういったところが空のまま市民に渡されますと、本当に例えが悪いのですが選挙運動の時にこれをやります、あれをやりますといったまま、それが実践されたかどうかは気になるようなところです。</p> <p>この長期計画では、この先、この具体的なチャレンジ計画とかそういったところでも、次回から出てくるものなのではないでしょうか。</p>
事務局	委員御指摘の方向で努力していきます。
会長	長期計画は計画ですから計画を出して、実際にこういうのが動くのは、市が何かプロジェクトを設定して、予算と人を付けてこれを具体化して動くと思います。
委員	<p>現在、青梅市で生活保護を受けている受給者の割合はどのなのでしょう。今、生活保護が圧迫していると聞いていますから、少し気になったものでお聞きしますが。</p> <p>計画の骨子としてたたき台は、見やすくなってきたかなと思います。</p>
健康福祉部長	16.4‰（パーミル）、1.64％です。4月1日現在、1,601世帯数、人口ですと2,287人。まだ増加しています。
委員	<p>厚生労働省の調べだと思うが、合計特殊出生率などをもとにして5年後、10年後、20年後、30年後の時の日本の人口を推定したデータがあるそうです。その中で、例えば10年後、20年後について労働人口になっている方々というのは、すでに生まれているので、これは、コントロールできない。しかし、それから先の人についてはコントロールできる。現在、1億2千万人の日本の人口が数十年後には8千万人になるという推定がされている中で、青梅の人口が13万人を確保してずっとやっていくというのは並大抵のことではないだろうと思います。すでに決まっている20年後の生産年齢人口についてどうこうするというのは、他からの転入者がいない限りだめなわけですが、せめて青梅市内の子どもの誕生が増えるように、あるいは</p>

	<p>転入が増えるようにということをしていかないと、青梅市の基礎的な体力が維持できないだろうと思います。</p> <p>そういう意味では、施策連動型の仕組みづくりの中の、ここでは3つの柱が載っていますけれども、他から何度も来たくなるような青梅、これが来たくなるだけでなく住み着いてくれたり、移ってくれたりするようになると非常によいと思います。</p> <p>それから、子育て世代が住みよい環境も将来のために大事だろうと思います。そのためには、市民が、誰もがそういう作業に参加して生きがいを持ってやっていくことも、頑張ってもらわなければいけないと思います。</p> <p>資料3のほうのまちづくりの基本方法と施策の分野、基本施策とかいうものを見ると、とてもよく出来て、きれいになってしまって、夢も希望もここからは読み取れないですね。施策というものはそれぞれ相互に関連しているのが当然ですから、ひとつひとつのものを、例えば防災・消防で書いたこれが、他の分野のところから見た時にこれに繋がるという、リンクについては市役所の方々が丁寧に、これとこれは関係あると整理していただくといいと思いますが、その背景にこのたたき台で書かれているような、つなぎ方がよいか悪いかということじゃなくて、真中に書いてあるこういうものを計画の評価軸にしてこれから進めていただければいいのではないかと、期待を込めての発言をさせていただきます。</p>
会長	<p>ひととおり伺ったわけですが、まだ発言したいという方は。</p>
委員	<p>資料3の学校教育で教職員の資質向上というのが、1ページの3の3、学校教育の部分、以前に立派な先生が多いですという文言を出されたと思います。私はそれを信じたい。少し色んな方に聞いてみると、先生方の時間がほとんどない現状がある。</p> <p>この計画では研修会に出るとかありますが、教職員の生産性といえますか、そういった方が大切なのでは。資質は十分にある。例えば、最近の先生方はレポートするので時間が取られちゃって、生徒と真正面を向いていけない、向けることができないというようなことをよく聞く。</p> <p>是非、この資質向上という表現でよいものなのかどうか検討していただきたい。</p>
会長	<p>小学校のことはよくは知らないが、物凄く忙しいんでしょう。要するに職場の環境が悪いんだよね。</p>
委員	<p>以前に審議会として宿題が出て、多くの委員さんから将来こういう風になっていったらというものがまとめられたものが、その後なんとなく保留になっていたりするんですけども、施策連動型の仕組みづくりという今回たたき台を示していただいて、次回また更にたたいたものが出てくるのを非常に期待したいと思いますが、その辺について是非、今回の総合長期計画に中で何らかの形で盛り込んでいただきたいと思っています。</p> <p>でも盛り込みにくい部分があるとすれば、審議会としてのある種の提言のようなもの、別冊扱いになるのかどうか分からないですけど、そういう形ででも提出して、今回の長期計画の付録的なものと</p>

	<p>して出すようなことも少し検討されてはどうか。</p> <p>御指摘にもありましたが、実際に計画を遂行する段階において、大変な苦勞が伴うだろう。その時にキーになるのは、民間の力、ある種の儲けが出そうだったといった原動力、モチベーションが必要になってきて、民間の人がきちんとお給料をいただいてそのプロジェクトの中心になって、色んな人材を集めてプロジェクトを進めていくやり方、そういうものまで盛り込みにくい部分があったとしたら、審議会としての提言というような形で、別途作っていくようなことも検討してみてはどうかということを提案しておきます。</p>
会長	<p>その点については、前に言いましたし、市の報告書ですから書けないという所もあるが、審議会でこういう意見が出ましたというのも書いといて、市と議論しますけど、そういう方向でやりたいと思います。</p>
委員	<p>この都市計画の地図がありますが、5次と6次が書かれています。考えるべきことは、多分この後に6次、次が7次、8次、9次とか来るわけですが人口減少の局面になる。そのため6次ではこうした施策に取り組むが、この次はもっと厳しい局面があるという前提で、次の10年、その次の10年も継続していけるような施策に関しては、市はやはり積極的に市民、あるいはそういう方々のサポートもするし、自らも投資をする。言葉は強いですけど、それ以外のところは撤退していくことも含めて決断していくような総合計画にしていっていただきたい。</p> <p>もう1点、御岳山は国際的な資源になり得るのではないかと考えています。高尾山と比べても御岳山のほうが素晴らしい資源だと思いますが、その割にはあまり市で投資されているような気がしませんので、ヨーロッパの山岳都市ですとか山岳観光とかを含めて見ても、日本独自の景観やインフラの投資をしても、10年、20年、30年経ってもいいという気もするので、もう少し積極的にとらえていただいてもよいかなと思います。</p>
会長	<p>御岳に限らず、青梅には結構よい資源がたくさんあるのに、今まで観光に力を入れてこなくて、少しまずいのではという議論はしていました。</p>
事務局	<p>今後の審議会の開催日程について説明。</p>
会長	<p>それでは、本日の議事は終了といたします。色々と意見ありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして、第7回の総合長期計画の審議会を終わりにします。どうもありがとうございました。</p> <p>(散会)</p>